

推進テーマ

「子ども一人ひとりの成長と 学びのつながいを考える」

横浜茅ヶ崎保育園
横浜国立茅ヶ崎小学校

○推進内容

- ・園児と児童の交流の推進
- ・教職員同士のカリキュラムを通じた交流

②連携推進事業の実際

令和2年度

・7月上旬...保育園と小学校からほど近い茅ヶ崎公園で偶然
出会うことを計画したが、雨天で2度延期。

・8月下旬...再度茅ヶ崎公園で出会う計画を立てたが、コロナ
対策と残暑で出かけられず、延期。

①推進テーマについて

○設定の理由

茅ヶ崎保育園と茅ヶ崎小学校は、隣同士に位置し、距離的には交流が
しやすい。年長:めろん組と1年生との交流は、以前から行っている。出会
いが自然にできるように、公園で偶然出会うという設定を保育士と教員
で示し合わせ、その後の活動に繋げている。一昨年はノーラン節を通して
6年生と年中・年長組との交流もでき、新たな触れ合いを始めることがで
きた。

一方、担当以外の教職員同士は、顔の見える関係にはなっていない。教
職員同士で交流する活動を取り入れ、子どもの学びについて新たな認識
や今後の保育・教育に生かせることを得られるよう、このテーマを設定し
た。

・10月上旬...1年生が、生活科の「きせつとなかよし」で保育園の横を通
り、メロン組が園庭で運動会練習をしているところを見つけた。明日が運
動会と園児から聞き、「あした、がんばってね!」と声をかけたり、タッチの
真似をしたりして、出会うの機会となった。

・12月下旬...小学校にて、保育園と小学校の教職員が、合同で研修を
行った。

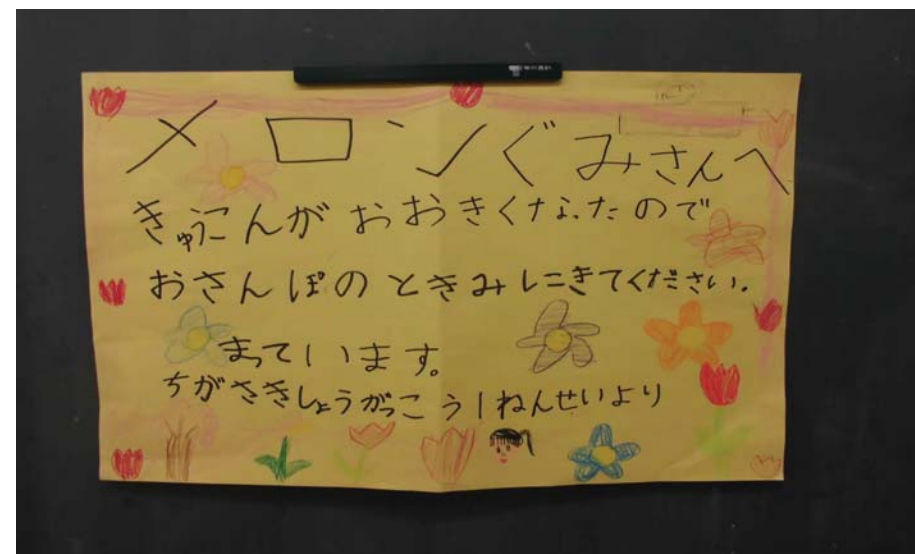
◎講義 テーマ「保育園から小学校へ
～子どもたちの育ちの連続性を知る～」

講師 和泉短期大学 児童福祉科教授 松山氏

◎茅ヶ崎保育園より、ドキュメンテーションを使った実践紹介
園児の活動や成長の実態を写真で見ながら、グループ討議

◎講師より助言

・2月上旬...1年生が育てている花が咲き始めたので、「いつでも見に来
ていいよ」とお手紙をかき、メロン組に届けた。



- ・令和3年度
- ・4月中旬...保育園と小学校の担当で、今年度の交流について計画を立てた。
- ・(6, 7月 コロナ対策で、クラス以外との交流不可能)
- ・夏季休業中に教職員同士の研修を企画したが、コロナ拡大で実施延期。
- ・10月中旬...教職員同士で申し合わせ、茅ヶ崎公園で、出会いの機会を作った。(メロン組は公園散歩、1年生は、生活科「いきものとなかよし」で虫採り)「こんにちは!」「なんねんせい?」「なにってるの?」など自然と会話を交わした。



・12月上旬...11月頃から、「今度はメロン組と一緒に遊びたい」と、1年生が遊びの計画を立て、茅ヶ崎公園で会う約束をして、交流した。



〈交流後の児童の感想〉

- ・めろん組さんがルールが分かりやすいように僕たちとペアになったから、にこにこして遊んでくれた。
- ・保育園でしたことがある遊びに決めておいてよかった。
- ・めろん組の〇〇ちゃんが、「また遊ぼう！」って言ってくれて、私も嬉しい。
- ・6年生がしてくれたように、優しく手を繋げた。
- ・めろん組さんが楽しそうに笑っていたから、また一緒に遊びたい。

③成果と課題

- ・保育園が、今年度から公立から民間に変わったが、担当者が年度当初に顔を合わせ、fax等で連絡を取り合い、今までの交流をもとに、継続して交流ができた。
- ・コロナの状況下でも、子どもたちの出会い、交流を行うことができた。1年生が5クラスあるので、感染対策もあり、今後も1クラス同士の交流を重ねていく。

- ・昨年度の研修をもとに、1年生を、「保育園で『できた』『分かった』をたくさん経験してきている子ども」としてとらえて、学習や生活指導を行う意識がもてた。
- ・昨年度行ってそれぞれに得るものが多かった教職員の交流を、来年度は行えるよう、時期を見ながら計画していきたい。